

平成30年度 第2回わくわく市民懇談会

- 1 日 時 平成30年7月1日(日) 午後6時30分から午後7時20分まで
- 2 場 所 一本木研修センター
- 3 出席者 一本木一日会 17名
市長、随員職員 2名
- 4 市長講話

こんばんは、市長の池田でございます。

早いものでもう一年が経ってしまったのかなという気持ちですが、一本木一日会の皆さまには、例年いろいろな話をさせてもらっていますので、一部重なってしまう部分もあるかもしれませんが、「地域力」についてお話したいと思います。

さて、「地域力」ってなんだろうとよく言われますが、言葉のまま地域の力ということで地方創生でも言われていますけども、地域の「創造によるまちづくり」などといった取組みが大切になってきます。市では「中野のチカラ応援交付金」というかたちで、総額200万円で最大30万円を交付する事業を行っていきまして、地域の力を結集することで住民の皆さまによる「まちづくりや課題解決」に取り組んでもらっています。

ちなみに、もうすでにご案内かと思いますが、西町では北信総合病院を中心にした街づくり協議会というのが立ち上がりまして、都市計画道路以外にも触れながら全体的なまちづくりに関して要望させていただきたいということで、住民組織が立ち上がりまして稼働をはじめました。こうした動きがでてくると、行政としても「行政だけで考えるのではなく、地域の人たちはどう考えるのか」といった考えになっていきます。また、地域の人たちの意見をまとめていただくと、言葉は悪いかもしれませんが、生産性が上がると感じています。そういった動きが今後、重要になってくると個人的には感じていますし、これからは「外との連携」というのが非常に大事になってくると思います。

さて、中野市には姉妹・友好都市がいくつあるかご存知でしょうか。音楽姉妹都市ということで仙台市と竹田市があります。それから北茨城市が姉妹都市としてあります。そして、豊田村時代に繋がりがあった磐田市が友好都市として繋がっています。また、災害時応援協定というかたちで、坂戸市、島田市と締結していきまして、民間団体ではコメリさんなどがあります。

そういった他市との繋がりを大事にすることで、例えばいろいろな都市の人が中野市に農村交流でやってきたときに、スムーズに進められることと思います。それ以外にも、先日、東京都中野区に行って来ましたが、今後なにかに繋がっていくと思います。

また、県では既に実施しているのですが、来年度から国の方で「森林税」が始まりまして、これは税金を一律に徴収して、それを県や市町村に分配をするのです。森林税は目的税ですから、森林の環境整備などに使わなければいけないのですが、例えば坂戸市や中野区など森林が無いんですね。あっても街路樹くらいだと思います。そういうところは、どう使うかといったときに、例えば、中野市に「中野区民の森」というような命名をした森林を用意しまして、そこへ皆さんに来てもらって森林整備をしてもらおうというような関係性を作り、有効に活用することによる資金循環を目論むことが出来ます。また、これからそういったことが進んでくるといいますし、都市と関係を結んでおくことが、いかに重要かということになってきています。いずれにしても、中野市の力を売り出すためには、市民の皆さまの力もさることながら、そういった外から来る人の力も借りつつ、事業を展開していくという考えもあるんじゃないかと思っています。

それから、このところ景気が良くて、市の税収も伸びてきているわけですが、中野市の市内総生産が2005年で1,313億円という数字ですが、そこから2009年が1,156億円のボトムで2014年には1,287億円まで回復しています。これらを支えている産業の基盤はいろいろあるわけですが、一本木の国道沿いにあるサービス業である第三次産業のウェイトが高いこともありますが、第二次産業におきましても2005年で457億円くらいだった付加価値が、現在では460億円となっています。それだけ景気が良くなっているわけですが、一方で、第一次産業はさほど伸びていないのが現状です。

今後も、農業関係には力を入れていくつもりですし、昨年度から始めた農業経営塾という事業があるのですが、昨年度に学ばれた方のうち4人くらいが共同で農業の法人化に向けて動き始めています。今年も第2回目の塾を開講予定ですが、最終的には、6次産業といわれているように1次、2次、3次とそれぞれの産業のいろんな人に入ってもらって農業経営塾のようなものが出来たらと考えています。また、中野市の人のみならず中野市で農業に就業して、企業化していきたいと考えている人などにも入ってもらって輪を広げていくというような構想を描いています。そして、そうすることによって、中野市で起業したいと言う人を迎えられる土台が出来ると考えています。

人口の話になりますけども、自然増減については、しばらくの間は過去の波が順次、うねりを打つように増減していくと思いますが、社会増減に関しては、地域の力や地域の責任のなかでやらなければいけません。魅力ある都市、魅力ある地域であるために中野市では何ができるかということは常に考えていなければいけませんし、行動を起こしていかなければいけません。その一つが、外から人を呼んでくるというような施策です。ちなみに、中野市はポテンシャルが高く、分譲住宅の数は年々伸びていまして、作れば売れるというような傾向にあります。中野市の地の利というのは、やっと認められてきたのかなと思います。インターチェンジ近くの草間山跡地では、長い間利用がなく空いていたのですが、ここにきて引き合いが出ている状況であります。高速道路の入り口が二つあって、北陸新幹線の開業などによる通過交通量を考えると便利であるというスポットがあたっているのかなと思います。

一方で、私がやりたいこととして、これからどんどん若手の起業家が中野市へ来てもいいのかなと思います。そういった人たちに、この地に集まってもらうための仕掛けをどうしようかなと思っています。ひいては、中野市に事業が増えれば人材採用の枠ができますし、小さな会社でもいいので、起業する人を中野市に呼んできたいという構想で動いています。また、そういったことの一環として「農業経営塾」

があります。

もう一方で、先日発表させていただきましたが、駅前にホテルを開業するということですが、これは「卵が先か、鶏が先か」ということだったのですが、「賑わいや人の往来」があれば、それを見ていた商業関係者たちは「そこに商機があるだろう」と考えて、お店などを出展するのが普通です。そういった意味でも人の流れを作りたかったことがあります。また、信州中野駅は中野市の玄関ですから、そこに明るさを取り戻すことが出来ると考えます。そうなれば、少しでも人口が増え、電車の利用客が増えれば相乗効果によって、ますます観光などが発展していくと思います。

今年度、地域おこし協力隊として4名に入ってもらいましたが、そのうち3名が農業分野に従事してもらっていて、1名が都市間交流に従事しています。そのほかにも職員として、大手旅行会社に勤めていた方を中途採用で採用したりなど、今後ともこういった力を活用しながら、周りの成功事例を見ながら、中野市のために尽力していきます。

話は変わりますが、一本木公園を中野市の観光拠点にしていかなければもったいないと感じています。今年のバラまつりでは、期間中は36,000人程度の入場者数でしたが、県内の坂城町などの競合相手もありますので、そういった要因もあって一時よりは、入場者数は減少しています。しかし、これからはインバウンドがありまして、ご案内のとおり、CNNが発表した「世界で行ってみたい場所」に長野県がランクインしてしまっていて、その長野県というのは、スノーモンキーが入っています。世界的に有名になったところで、山ノ内町長に聞いてみたら、スノーモンキー目当てのお客さんは1.5倍になったそうです。そういうお客さんをどう捕まえるかというのは、バラまつりだったり、飯山市の菜の花まつりも同じかもしれません。飯山の道の駅は売上がものすごい勢いで伸びているようで、拡張整備をするということも聞いています。こういったことも含めて、地域間で相乗効果を発揮できるようないろいろな

工夫をし、お互いを高めていくことで中野市にもお客さんが来ることと思います。とはいえ、中野市の場合には、製造や生産といった面が強いのかなと思います。6次産業化プロジェクトやきのこミュージアムなどと合体させていろいろな仕組み仕掛けを作り上げて、事業を推進していきたいと思ひますし、その中心に一本木公園をもつていきたいと考えています。しかし、一本木公園の問題としては、駐車場の狭さがありますし、そういった声もバラまつり期間中に聞こえてきました。そういった声にも真摯に聞くか、聞かないかが大事だと考えます。いずれにしても、こうありたいという思いを持ちながら、それに向かって行動を常にとつていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひします。以上、雑ぱくですが、ありがとうございました。

《質疑応答・要望①》

先日、新聞で、今後30年間の震度6以上の地震が発生する可能性について掲載されていました。中野市は2.9%で県内19市中、1番低いという状況です。こういった結果も踏まえて、「安心・安全な街」ということで住みよい街としてアピール、営業活動をしたら、どうでしょうか。

(市長)

台風などの災害は少ないと思ひていますが、さらに万全の備えをしていかなければと考えています。